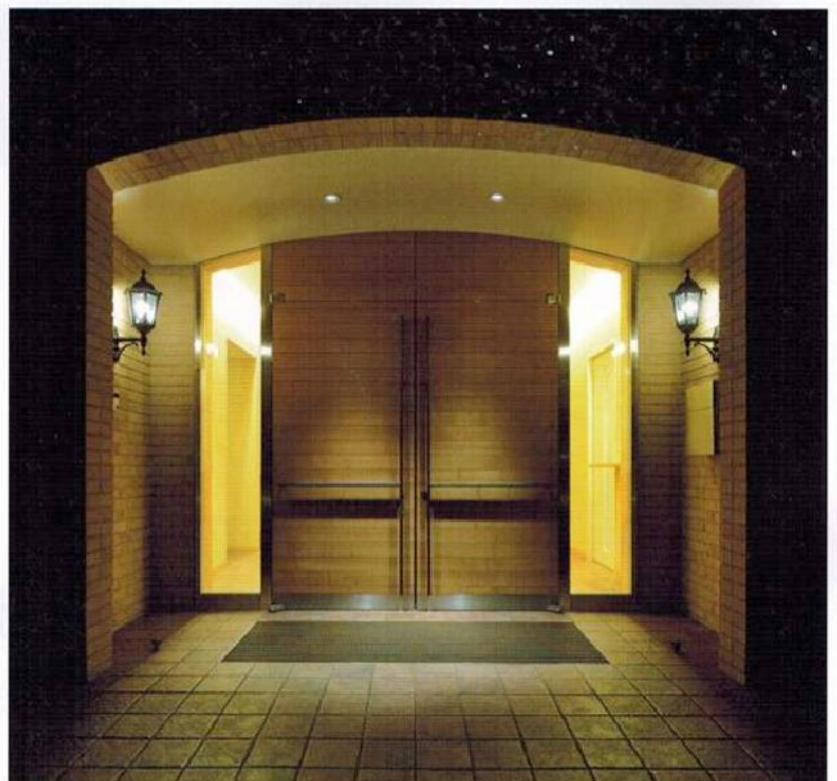
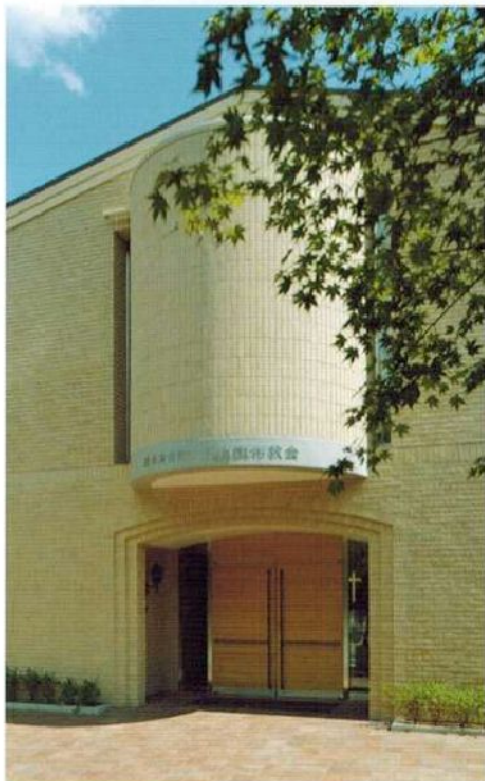


献堂



2012年10月7日

日本基督教団 田園調布教会



新会堂献堂にあたって

日本基督教団田園調布教会

牧師 田村 博

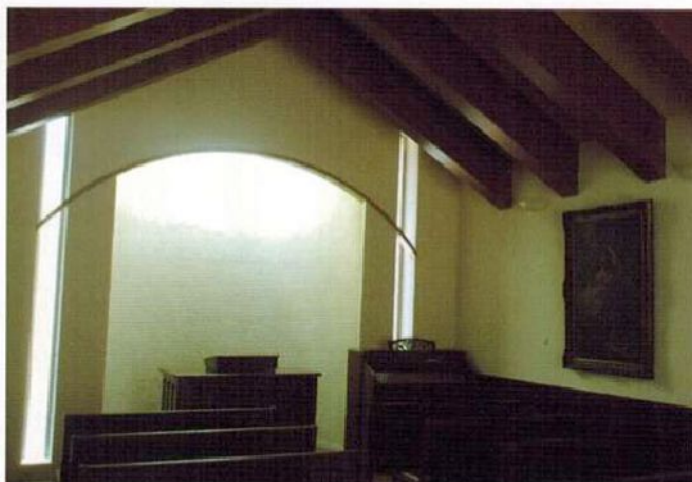
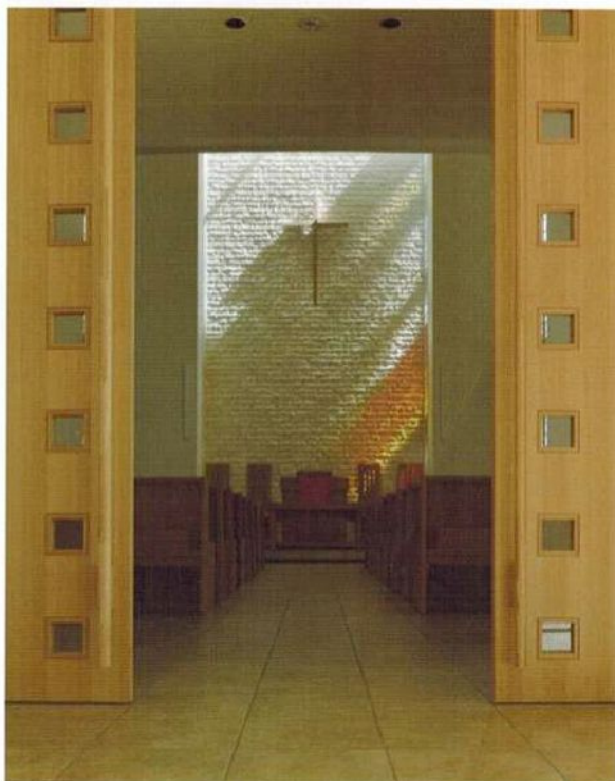
主の御名を崇め、栄光をほめたたえます。

すべての主である全能の神が、わたしたちに「共にキリストの体なる教会を造り上げる」というビジョンを与えて下さり、すべてを導いて完成に至らせて下さったことを心より感謝致します。多くの方々が祈りと支えによって励まし続けて下さいました。また、建築決意に至るまでの20年以上にわたる多くの祈りを忘れることはできません。ありがとうございました。

わたしたちに与えられたビジョンを形にしてくださった大岡山建築設計研究所、竹中工務店の方々に心より感謝申し上げます。設計にあたり、田淵諭先生、江川竜平先生は教会の歩みを十分に理解するために教会の話し合いに何度も加わって下さいました。また、竹中工務店の皆様は、数々の課題に誠実に関わり続けて下さいました。ありがとうございました。

会堂建築期間中は、日曜日毎に玉川聖学院の谷口ホールをお借りすることができ、一度も欠くことなく主日の公同礼拝をささげることができました。また、会堂で行われていた幼稚園の諸活動のためにはカトリック田園調布教会の集会室等を使わせていただき、幼稚園運営にも支障が生じることがありませんでした。さらには奥沢教会、用賀教会、日本福音ルーテル田園調布教会の礼拝堂を使わせていただきました。心より感謝申し上げます。

主なる神が、「全世界に行って、すべての造られたものに福音を宣べ伝えなさい。」(マルコ16:15)という宣教の使命を全うさせるために、このすばらしい器をわたしたちに託して下さいます。聖霊の御力を常に仰ぎつつ、聖霊に満たされて、その使命を担ってゆきたいと思います。



献堂までの道のり

会堂建築委員長 金川 一郎

会堂建築委員会の前身である長期計画準備委員会が1985年に発足しました。

それから23年経って「現会堂敷地内に会堂を建築・献堂する件」が2008年4月27日の定期総会において承認されました。さらに4年、多様な要望に対応いただいた設計、忍耐強く堅実な施工の結果、今日の献堂を迎えることができました。

ここに到るまでに、どれほど多くの方々の痛みと苦しみ、忍耐と祈りがあったかを思います。そして志半ばにして天に召され、あるいは諸事情のために、この日の献堂式に出席できない方々を思います。

なぜ会堂建築をするためにこんなに長くかかったのかと思われる方も多いと思います。しかしこの時間は必要だったと、今振り返って見れば思われます。

この七十五年を越す田園調布教会の歴史の中で会堂の果たしてきた役割は計り知れないものがあります。

この歴史を思うとき、この会堂に対する深い愛着と感謝の気持から、なんとか残してこれからも使い続けたいとの思いが湧いてきたのも当然です。

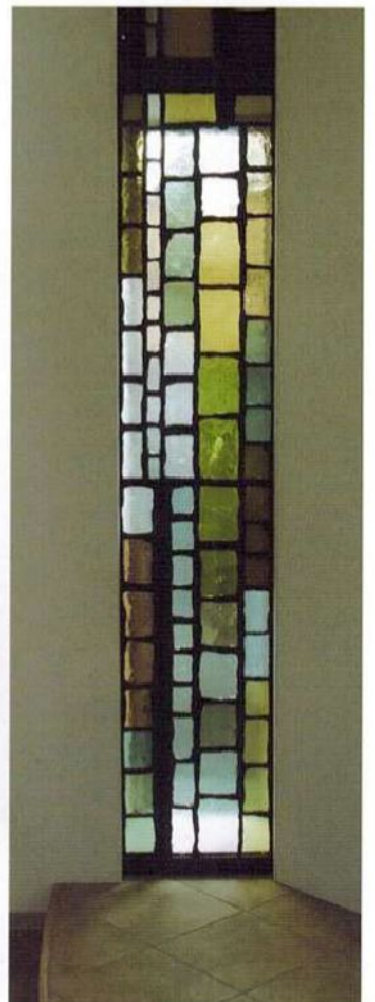
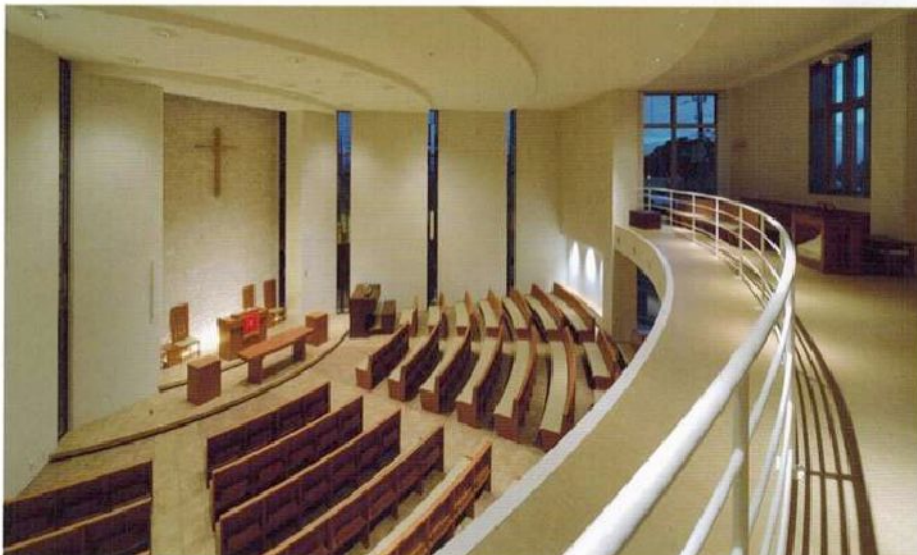
しかしその一方、建設後五十年を越え、その安全性と機能の面から支障が目立ってきていました。

そのため、保存と新築の二つの意見が出されました。会堂建築委員会と役員(長老)会は性急に結論を出すことは教会員の間にわだかまりを残す恐れがあると考え、安全面と機能面から検討を進めると同時に、その結果をニュースレターや説明会、懇談会を通して分かち合いました。

この間、教会員一人ひとりがその考えは異なったとしても、ともに主にある兄弟姉妹として教会のために、主にある一致を祈り求めました。そして会堂建築のための献金が捧げ続けられました。

出エジプトのとき荒野を導いてくださった主は、この27年にわたって私たちを導き、ついに新会堂を完成させてくださいました。

感謝の祈りを、ともにささげたいと思います。



会堂建築の歩み

- 1985年 長期計画準備委員会が発足した。
- 1989年 長期計画委員会に名称変更。
- 1991年 会堂を新築した場合の試算。約6.8億円程度（バブル末期で工事費はまだ高い）
- 1993年 総会において、「長期計画口」を「会堂建築献金」と変更。

将来の会堂に対する意志統一のために

- 1995年 総会で会堂建築検討委員会が設置された。
- 1997年 敷地測量を実施、7月役員会では現敷地での建築企画案、資金計画案が出された。
- 1998年 CS教師研修会において28名の署名のある「会堂建築の際発生する負債に対して、私たち若い世代は引き受ける覚悟です。神様の導きを信じて新会堂建築を決断してください」との提案書が役員会宛に提出された。
- 1999年 建設コストの概算を出した。建設費3.8億円、関連費を合わせて4.6億円。バブル期の65～70%。隣地取得を検討したが、現敷地での新会堂建築をすることが決められた。

会堂の老朽化が顕在化

同年12月、会堂の西側外壁が外向きに膨らんでいること、内外壁にひび割れが多数見られることなど構造躯体への心配があるため、構造強度調査（トラス架構を中心に）を中田捷夫研究室（構造設計事務所）に依頼した。

1. 梁間方向の補強はかなり大げさなものになりそう。
2. 現行法規に合わせた補強は新築に近い工事費がかかる。

- 2000年 7月玄関上部の壁が剥落した。正面丸窓の周辺の柱、梁の腐朽が進み、2階和室の床を支える梁を受ける桁梁も腐朽し、無くなっていた。このため、仮の柱2本と桁梁を入れる応急処置を行なった。

会堂建築に向けて

- 2001年 総会において「会堂建築検討委員会」を「会堂建築委員会」と名称変更。
- 2002年 膠着状態を脱し、意見交換を活発化させるため専門委員に試案を出してもらい、公開して意見を募った。
- 2003年 できるだけ現会堂を残したいとして、改修案が出されたが、法規上制約が大きく、ほとんど原型を留められない。さらに、長期的にみて機能上も改善が難しい上、建設費も決して安くならない。これらの理由から採用しないとされた。
- 2005年 意見の収束をはかるために、耐震分野の専門家により調査が行なわれた。簡易手法による耐震診断ののち実地調査、設計図書をベースに構造計算を行い、この建物は建築基準法に規定されている強度の2～3割しかなく少し強い地震でも倒壊する危険性がある、との診断結果が出された。
- 2006年 これらの経緯を踏まえて懇談会をもち、収斂に向かうことを願ったが、感情的な反発や長年使ってきた会堂を取り壊すことに対する反対論も収まらなかった。
耐震診断に関して、セカンドオピニオンを聞いた中田捷夫氏からは「少なくとも創建当時の強度はなく、補強しても現在の建築基準法を満たすことは難しい。かりに調査をかさねたとしても断定的な答えの出にくい問題である。教会員自身が長期的な視点から早急に決断すべき」とされた。
新築を視野に入れ、構造体の腐食が進み、倒壊の危険性の大きい塔屋のみ解体撤去した。

新会堂の建設

- 2008年度総会で「現会堂敷地内に新しい会堂を建築・献堂する」ことが決議された。
プロポーザル方式により設計者を選定するため、会員から推薦された設計社（15社）に対して技術提案書作成依頼し、一次選考により、3社を選定。教会員に対して、プレゼンテーションを行ってもらい、面接ののち1社を選定した。
- 2009年度総会において大岡山建築設計研究所が承認された。
教会員の会堂に対するビジョンと希望を集約し、12月に計画案としてまとめた。
- 2010年 この計画案をもとに基本設計を行い、実施設計・確認申請を行った。
- 2011年4月から玉川聖学院谷口ホールにて聖日礼拝を行う。
施工会社を入札により選定
同年 5月の臨時総会で施工会社は竹中工務店に決定。
6月工事契約締結。7月から解体工事。8月21日起工式。23日本工事着工。
- 2012年 7月19日竣工引渡し。8月26日をもって玉川聖学院谷口ホールでの聖日礼拝を終了した。9月2日から新会堂での礼拝となる。

新築に思う

大岡山建築設計研究所
代表取締役 田淵 諭

このたびは日本基督教団田園調布教会新築工事の設計と監理を無事終え、この良き日に献堂式を迎えられますことを主の御前に感謝いたします。

また、ここまで導いてくださいました田村博牧師を始め建築委員会の方々、教会員の方々に厚くお礼を申し上げます。

選出いただいてから、教会員の皆様、建築委員会の皆様と数多くの検討を重ねてきました。特に今回の計画に際しましては、礼拝堂形状や会衆席のあり方、講壇周りの考え方、十字架を掲げる意味といった神学的な考察、教会の歴史を学び実現させることの検討、これらとともに、活発な日曜学校の分級数の確保と礼拝空間の共存をどう図るか等も積極的に話し合われました。

建築にあたって、要望諸室を「切り妻のエントランス棟」と「扇型の礼拝堂棟」の2棟に分けて配置し、各棟の間には地下まで続く吹き抜けと階段室を設けました。

礼拝堂は朝日を受ける東南の角を講壇とし、御言葉が広く述べ伝えられるよう集中式礼拝堂としました。

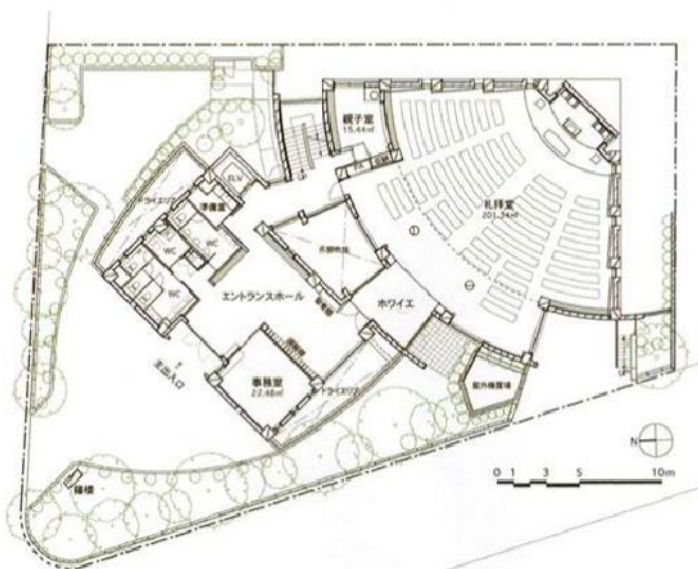
礼拝堂の講壇上部にはトップライトを、両軸壁には床から天井まで聖霊をイメージしたステンドグラスを8本設けました。移りゆく光とともに、礼拝堂内に祈りと賛美が溢れることを願いました。

工事に関しては、見積もり中に東日本大震災に見舞われ着工が危ぶまれた中、物資不足や職人不足を惜しめない努力で乗り越え、無事故で完成させてくれた竹中工務店の皆様にお礼を申し上げます。

日本基督教団の重要な教会として、田園調布という地にあって地域に開かれ、ますます発展されることをお祈りしております。

ありがとうございました。

1階平面図



2階平面図



地階平面図



献堂式にあたって

株式会社 竹中工務店 東京本店
作業所長 武政 高弘

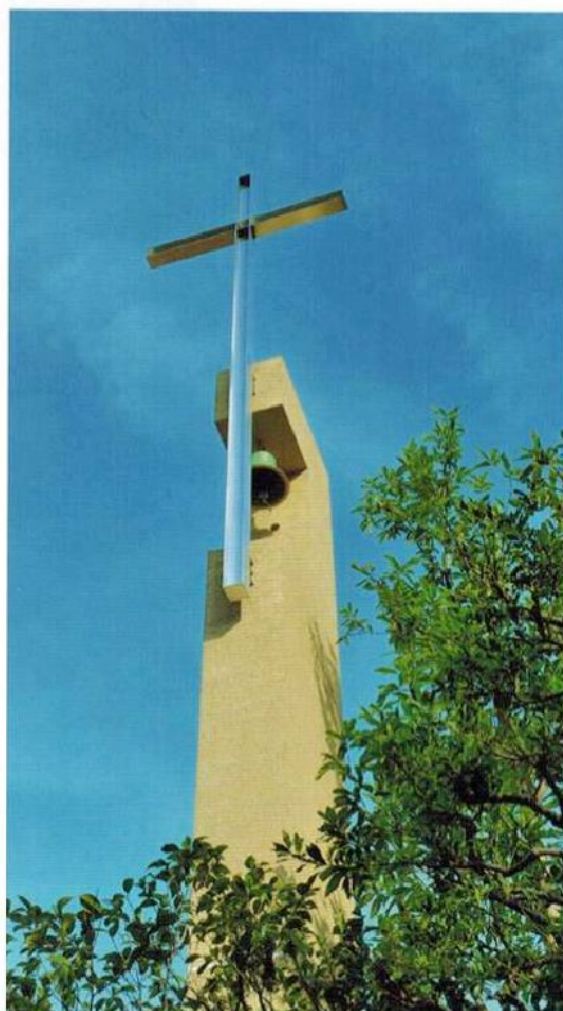
日本基督教団田園調布教会の新会堂の完成およびご献堂を心からお慶び申し上げます。周囲の環境に調和し、美しくも威厳のある佇まいをみせる新会堂の工事をさせて頂き、無事お引渡しができましたことは、大きな喜びであり感謝の気持ちで一杯です。今日に至るまで、教会の建築委員他関係者の皆様が計り知れないご努力と熱意を傾けられ、長年の夢を結実されたものと存じます。

現場責任者として、田園調布教会に相応しい高い品質レベルを満足させなければいけないという大きなプレッシャーもあり、大変閑静な住宅街における工事ということで気を使う点多々ありました。また昨年の東日本大震災の影響を受けて、全国的な職人の逼迫などがあり、工程進捗でご迷惑をお掛けすることになりました。工事を進めていく上での様々な障害を乗り越え、こうして竣工できましたのも、ひとえに、田村牧師はじめ皆様からのあたたかいご指導のおかげです。本当にありがとうございました。

この建物が、教会員の皆様に末永く愛され、未来に向けて100年200年と大切に使い続けられること、そして田園調布教会がますますご発展されることをお祈り申し上げます。

新会堂建築概要

名 称：日本基督教団田園調布教会新築工事
敷 地：東京都大田区3-34-18
敷 地 面 積：1025.42㎡
地域地区指定：第1種低層住居専用地域、
準防火地域、風致地区、地区計画地区
構 造：鉄筋コンクリート造、一部鉄骨造、地上2階、
地下1階
床 面 積：2階 221.55㎡
1階 390.49㎡
地階 206.76㎡
小計 818.80㎡
地下駐車場 163.29㎡
合計 982.09㎡
設計・建築：大岡山建築設計研究所
・構造／団設計同人
・設備設計／テーテンス事務所
・音響／森本浪速音響設計
・外構／プレイスメディア
・照明／内原智史デザイン事務所
・ステンドグラス／三浦啓子
設 計 期 間：計画案 2009年4月～12月
基本設計 2010年1月～9月
実施設計 2010年9月～12月
施 工：竹中工務店
建築工事期間：2011年7月から解体工事 8月着工
2012年8月竣工





日本基督教団 田園調布教会

〒145-0071 東京都大田区田園調布3-34-18

e-mail denenchofu@den-church.jp

URL <http://den-church.jp/>

Tel. 03-3721-2811 Fax. 03-3721-2814